

図書だより

6月

田原本町立北中学校
令和3年6月
第2号

新年度が始まり、たくさんの方が図書室の本を借りに来てくれています。専門委員会のメンバーもきまり、今年度の委員会のメンバーによる貸し出しも始まっています。

そんな新メンバーで、今年度の目標を考えました。その目標とは、ズバリ！

「図書室を大勢の人に利用してもらい、不読者を減らす。」

昨年度は本当に多くの方が図書室を利用してくれました。貸出冊数も増加し、とてもうれしかったのですが、図書室に来てくれるメンバーは固定化し、来ない人は1年を通じて一度も来ないという状況でした。そんな状況を変えるべく、図書委員としてもこれからいろいろと工夫していこうと思っています。その第一段が、裏に記載されています。

課題図書が入荷しました！

この時期になると、毎年書店に並ぶ「課題図書」。学校でもポスターが貼られたり、読書感想文コンクールの応募に合わせて紹介されたりしますよね。北中学校でも、毎年購入していますが、そもそも課題図書って何か知っていますか？ 今回はQ & A形式で、皆さんの疑問に答えたいと思います！

Q. 課題図書って何？

A. 学校における読書指導の一環として、休暇期間中などを利用して読むことを推奨した図書

Q. 誰が決めるの？

A. 「全国学校図書館協議会」というところです。本の専門家が決めます。

Q. どういう基準で選んでいるの？

- A.
- 新しく出版された書籍であること（1～2年以内）。
 - その学年児童の成長・発達に応じた内容であること。
 - その学年児童の学習に応じた内容であること。
 - 人を大切にしている内容であること。
 - 情報が正確であること。

課題図書のことがわかりましたか？ 皆さんもぜひ一度読んでみてくださいね！

中学校の部



「with you (ウィズ・ユー)」／濱野京子（くもん出版）

悠人が夜の公園で出会った少女・朱音は、母親の介護に携わる“ヤングケアラー”だった。彼女の力になりたいと思うようになる悠人だが——。これは恋なのか、それとも別の感情なのか？「誰かを大切に思うこと」を描く。



「アーニャは、きっと来る」／マイケル・モーパーゴ 作 佐藤見果夢 訳
(評論社)

第二次世界大戦中のフランス山間部の村。羊飼いの少年ジョーは、ユダヤ人の子もたちの亡命に手を貸すことになる。ドイツ兵が駐留する中、村人が心を一つにして、命を守るために立ち上がる。映画にもなった感動作。



「牧野富太郎：日本植物学の父」／清水洋美 文 里見和彦 絵（汐文社）

日本全国の野山を駆け巡り、集めた標本は40万点。数多くの新種を発見し、命名した植物は1500種類以上。草木を愛し、愛された、日本が誇る植物学者・牧野富太郎の波瀾万丈な94年の人生を描きます。

小学校高学年の部



「エカシの森と子馬のポンコ」
加藤多一 作 大野八生 絵
「サンドイッチクラブ」
長江優子 作
「おいで、アラスカ！」
アンナ・ウォルツ 作
野坂悦子 訳
「オランウータンに会いたい」
久世濃子 著

高等学校の部



「水を縫う」／寺地はるな 著
「兄の名は、ジェシカ」
／ジョン・ボイン 著 原田勝 訳
「科学者になりたい君へ」／佐藤勝彦 著